

「勝(克)つ企業(お店)」- ⑪

「強みを伸ばす投資を」

中小企業診断士 **大野 実雄**

1 設備投資とは

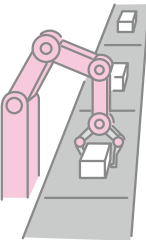
①設備投資とは、企業や店舗が事業のために用いる設備に対して行う投資のこと。企業や店舗が商品を生産・販売したり新商品を開発したりするために必要な設備を用意するための資

金投入のことを指します。具体的には、「土地」「建物」「機械」「備品」「車両」「ソフトウェア」など、数年、場合によっては数十年にわたって使用するものです。

②設備投資の内容は生産設備の新設、生産能力の拡大、老朽設備の更新・補強、省エネ・省力化、合理化、情報化などのために行うものです。

③設備投資は2種類に分類される。建物や機械設備など目に見える「有形固定資産」、ソフトウェアや商標権、特許など目に見えない「無形固定資産」の2種類があります。

④設備投資は景気の指標。国内総生産(GDP)を構成する主要な要素のひとつで、景気に大きな影響を与えることから、個人消費とともに景気の両輪といわれています。



2 設備投資の基本的な考え方(軸)

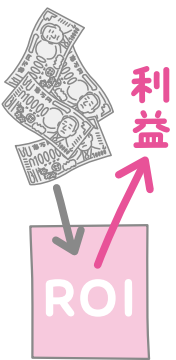
①②③④を総合的に勘案するのが望ましい。

①攻めか守りかを分ける
攻めの投資(成長投資)は売上増加、新規事業、受注拡大
守りの投資(維持・更新)は老朽化



*ROIとは「Return On Investment」の略で、投資した費用に対してどれだけの利益が得られたかを示す指標です。投資収益率や投資利益率と訳され、投資効率を測る重要な経営指標として活用されます。

*ROIの計算方法
ROIは以下の計算式で算出されます。 $ROI(\%) = \frac{\text{利益}}{\text{投資額}} \times 100$ 。例えば、100万円の投資で200万円の売上、売上原価80万円の場合、利益は20万円(200万円-80万円)、100万円となり、ROIは20%(20万円÷100万円×100)です。ROIの理想的な数値は、業種や事業内容によって異なりますが、事業投資なら10%~20%程度が目安。



4 強みを伸ばすものに投資する

企業の設備投資の目的には3つが考えられます。

1つ目は、生産性向上を図る。
2つ目は省力化、省人化といったコストダウンを図る。
3つ目は設備の更新です。
今後の設備投資の最優先は、自社

の現在の強みを伸ばすもの、未来の強みを開発するものに投資をすべきです。なぜかと言いますと、これからは競合他社より違う(勝つ)強みがないと業界では生き残れないからです。

顧客が早い納期を優先的に取引条件とするならば、今よりも半分の納期にする投資をすることが必要です。顧客が納期に向かっているのに品質強化に投資するのは未来に勝ち残れません。もちろん、業界の常識(水準)以上の品質を提供するのは当然です。



3 よくある投資失敗パターン

①現場の要望だけで決める。便利だが回収できない投資になる。
②減価償却だけで判断。キャッシュフローを見ていない。
③使われない設備。教育・運用設計不足。
④補助金ありき。本来不要な投資をしてしまう。



4 設備投資の判断力をアップする方法

①キャッシュフロー視点。支払時期(リースvs購入)、借入とのバランス
②稼働率。本当に使うか? 何%稼働するか?

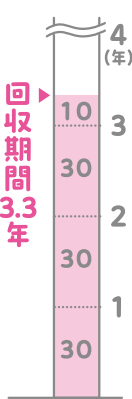
◆稼働率が低いなら「購入ではなくレンタル」も検討

③外注との比較。内製化vs外注、投資せず外注の方が安い場合も多い

5 回収期間は短いほど投資のリスクが低くなる

例えば、100万円の製造機械を購入したとします。年間で増加する売上は50万円、ランニングコストは20万円とすると、この設備投資による各年度の利益は30万円です。これを足し合わせた数字が初期投資である100万円に並ぶのは、30万円+30万円+30万円+10万円となる4年目です。端数は10万円÷30万円≒0.3なので、回収期間は約3.3年となります。

なぜなら、事業環境は初期投資の時期から大きく変化する可能性があるからです。



おの じつ お
大野 実雄
中小企業診断士・販売士

●プロフィール
メーカー、経営コンサルティングファームを経てオオノ経営労務事務所開設。「変化には変化でしか対応できない」を企業支援の基本としている。著書に「売れるように売れば必ず売れる」「働き方・生き方こころの軸」「勝つ企業」等がある。

